

総領事館便り5月号

★令和4年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「東ジャワ州トゥバン県イスラム小学校校舎建設計画」の引渡し式

4月29日、竹山総領事は、日本政府の支援により東ジャワ州トゥバン県パレンガン郡のイスラム小学校に建設された校舎の引渡しを行いました。引渡し式には、ダルマディン・パレンガン郡長や支援の対象となった小学校関係者が出席しました。

今回新しい校舎と学校備品が整備された小学校は、生徒数の増加に学校設備が追いついておらず、一部の生徒は周辺モスク等で勉強することを余儀なくされてきました。引渡し式において、竹山総領事は、今回の支援を通じて児童・教員が適切な環境で授業を行えるようになり、ひいては地域の教育の質の向上につながることを期待しており、整備された校舎や備品を最大限活用してもらいたい旨述べました。在スラバヤ日本国総領事館では、支援された校舎や学校備品が長期間最大限活用されるよう引き続き関係機関と連携していきます。



竹山総領事と今回支援の対象となった小学校に通う児童



引渡し式の参加者及び小学校関係者と今回の支援で建設された校舎の前で



今回の支援で建設された2階建て校舎
(6教室・トイレ付き)



今回の支援で建設された校舎の教室
(机、椅子、白板も支援品)

★国立ブラウィジャヤ大学文学部への神輿贈与

4月23日、ジャカルタの在留邦人コミュニティ「ジャカルタ神輿連」から国立ブラウィジャヤ大学文学部への神輿贈与式が行われ、竹山総領事が出席しました。

今回贈与された神輿は、ジャカルタの在留邦人コミュニティ「祭りの会」が以前所有していたもので、ジャカルタ神輿連が修繕作業を行った上で、在スラバヤ日本国総領事館が引渡し先大学として推薦したブラウィジャヤ大学への贈与が実現しました。引渡し当日には、ジャカルタ神輿連によって、神輿の担ぎ方や管理方法に関するセミナーが大学生向けに実施され、学生は本物の神輿に高い関心を寄せ、「セイヤー、セイヤー」のかけ声をかけてリズムを合わせて会場内を練り歩きました。



★離任の御挨拶

●赤井 俊樹 領事（離任）

この度、3年間の在スラバヤ日本国総領事館での勤務を終え、5月14日に帰国となりました。

ここスラバヤでの勤務が決定した際「スラバヤってどこの国？」と調べなければならぬほど、スラバヤを含むインドネシアの生活、文化全てを全く知らない中、コロナ禍真っ只中でジュアンダ国際空港に家族と降り立ったところから始まった3年間のインドネシアでの生活、その中で、EJJCの皆様、また、スラバヤ日本人学校の教職員の皆様、そして、東ジャワ州で生活を送っている在留邦人の皆様に支えられ、家族と共に非常に感謝をしております。また、総領事館での仕事の中で、皆様にお知恵を借りながら一つ一つの仕事が出来たこと、帰国後の自身の仕事においても非常に良い経験となりました。

私の地元では、残念ながら、スラバヤに来る前の私同様、東ジャワ州という土地、そして、多くの在留邦人の皆様が生活していることを知らない者が多くいます。地元に戻った後、東ジャワ州という素晴らしい土地で、多くの在留邦人、そして、スラバヤ日本人学校で学ぶ多くの子供達がいることを宣伝したいと考えております。

最後になりますが、改めて、ここ東ジャワ州でお世話になった皆様へ感謝を申し上げますと共に、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

（以上）